

生涯教育研修活動報告書

病理検査研究班

- 1 実施日時：2022年6月24日（金） 18時00分～19時00分
- 2 会場： Web開催 点数： 専門 — 20点
- 3 主題： 病理解剖の知識を高めよう！（応用編）～ COVID-19患者の解剖例 ～
- 4 講師： 奥寺 康司（横浜市立大学医学部 病態病理学教室）
- 5 協賛： _____
- 6 参加人数： 会員 201名 賛助会員 _____ 名 非会員 _____ 名
- 7 出席した研究班班員：関口久男、森田繁、高橋俊介、小島朋子、細沼佑介、今村尚貴、遠山人成、松本祐弥、三鍋慎也

8 研修内容の概要・感想など

今回は「病理解剖の知識を高めよう！（応用編）～ COVID-19患者の解剖例 ～」をテーマに、奥寺医師に講演をお願いした。

横浜市立市民病院における COVID-19患者の剖検は、業務に携わる人数を最小限に抑え、CAP病理解剖委員会が推奨する換気環境の整備された剖検室にて、ドライで実施するとのことであった。

実際の剖検例の解析から COVID-19重症例、および回復例における肺病変の本態は「時空的ヘテロ性に富むびまん性肺胞傷害（DAD）」、すなわち、重症例は不可逆的で多様な肺胞の損傷であり、回復例は可逆的な比較的軽度な肺胞障害であること、また、ウイルスの標的細胞が「肺胞上皮細胞」であることなど、病理組織像を交えて解説された。さらに、慢性化例においては「活動性の線維増生を示す間質性肺炎である可能性がある」こともご教示いただいた。

2019年から続いている COVID-19感染症については、様々な雑誌やメディア等で、その病態について論じられているが、実際の剖検例を通して病理学的観点から話を聞く機会は限られており、今回の講演は本当に貴重な経験となった。

提出日 2022年7月4日

文責：三鍋慎也